2026 年 11 月 25 日

報道関係各位

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社

AI 駆動開発に向け、クラウドネイティブ技術支援サービス群「C-Native」を拡充

IT インフラのガバナンス強化と開発環境の標準化を支援

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社（代表取締役社長：新宮　達史、本社：東京都港区、略称：CTC）は、クラウドネイティブ技術支援サービス群「C-Native」に、システム構築におけるプログラムの作成やテストなどに AI を取り入れた「AI 駆動開発」を支援する 2 つのメニューを拡充しました。IT インフラの構成や権限、セキュリティなどのルールを整備と、開発環境の標準化により、AI 駆動開発を全社に展開するための IT インフラのガバナンス強化を支援します。価格は 700 万円（税抜き）からで、AI 駆動開発のガバナンス強化に取り組む企業を中心に展開し、3 年間で 10 億円の売上を目指します。

近年、クラウド、ネットワークなどの IT インフラの構築における「AI 駆動開発」が広がっています。構築・管理をコードで自動化する IaC（Infrastructure as Code）と呼ばれる技術の活用が進んでいる一方、AI の利用拡大に伴い、開発環境や運用ノウハウが分散し、インフラの構成や権限、品質、セキュリティ対策の統一的な管理が課題となっています。AI 技術の進化に合わせて、開発環境を迅速に構築・拡張しながら、統制する仕組みの重要性が高まっています。

CTC は 2020 年から、クラウドネイティブ化の技術支援サービス群「C-Native」を提供しています。今回追加した 2 つのメニューは、AI 駆動開発に必要なインフラや IaC に対し、構成や権限、セキュリティのルールを整えて統制する「C-Native Harness（シーネイティブ ハーネス）」と、C-Native Harness で定めたルールを適用した開発環境「C-Native CodeSpire（シーネイティブ コードスパイア）」です。

名称	内容
C-Native Harness	クラウド環境やシステムの実行基盤をコードで構築・管理する際に、構成や権限、セキュリティのルールを適用する仕組みを提供。AI が生成・変更したコードもルールに沿って統制することで、設定ミスや情報漏洩などのリスクを低減し安定した AI 駆動開発を支援。
C-Native CodeSpire	テンプレートやツールなど、AI 駆動開発に必要な共通の開発環境を提供。「C-Native Harness」で定めた標準ルールや設定を適用することで、環境構築にかかる工数を削減し、AI 活用の迅速な全社展開を支援。

CTC は、クラウドネイティブ技術の導入や運用で培った知見に加え、自社利用や実案件で蓄積したノウハウを活用し、AI 活用を支えるインフラのルール整備からシステム開発、導入、運用まで、企業ごとの環境に合わせて支援します。また、2026 年 10 月に、AI を活用して新規アプリケーションの開発と既存システムの刷新を支援する「A-Native」の提供を始めており、C-Native と組み合わせることで、システム全体の新規開発から段階的なクラウド移行・モダナイズまでを一貫して支援します。

今後も CTC は、「C-Native」のメニューを拡充すると共に、データ活用基盤の構築を支援する「D-Native」を含めた CTC のサービス群と連携も視野に入れ、企業の AI 活用を支援していきます。

＜C-Native のイメージ＞



※　その他、記載されている商品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。
※　掲載されている情報は、発表日現在の情報です。最新の情報と異なる場合がありますのでご了承ください。

以上

＜報道機関からのお問い合わせ先＞
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
広報部
E-mail：press@ctc-g.co.jp